

高温・少雨に対する農作物の技術対策

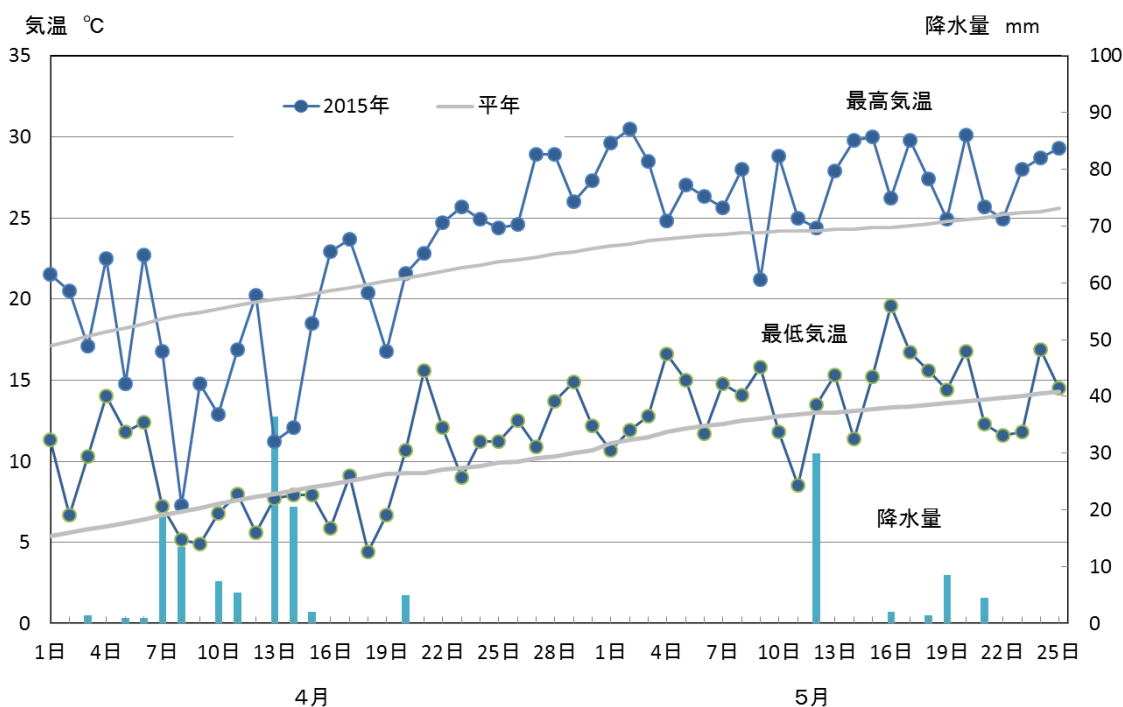
平成27年5月26日

農業技術課
総合農業技術センター技術普及部
果樹試験場技術普及部
畜産試験場技術普及部

1 経過

4月中旬以降、高温と乾燥が続いています。今後1週間も高温と少雨の傾向が続く見込みです。雨量が少ない場合は、以下の対策をお願いします。

4月～5月中旬の気象の推移



2 技術対策

果樹

○ブドウ

ブドウの早場地域の生育は、デラウェアは幼果期、大房ブドウの巨峰がジベレリン処理期を迎えている。

開花中は原則的にはかん水を控えるが、極端な乾燥は、花穂の蕾が落ちたり、結実にも悪い影響が心配される。また、ジベレリン処理時期に乾燥が続く場合、処理効果を安定させるため、指導機関の指示に従ってかん水や散水を行う。

果粒肥大期のかん水量は、5日間隔で25mmを目安とし、降雨量を見ながらかん水量を調整し、1日あたりの降雨量が5mm以下の場合はカウントしない。

○立ち木

モモ、スモモの生育は、仕上げ摘果から袋かけ時期となっている。

幼果期のかん水量は7日間隔で20mmを目安とし、降雨量を見ながらかん水量を調整する。仕上げ摘果後の第3肥大期のかん水量は、5～7日間隔で20～25mmを目安に行ない、降雨量を見ながらかん水量を調整し、いずれの場合も1日あたりの降雨量が5mm以下の場合は降雨量としてカウントしない。

なお、オウトウで着色成熟期に入る場合は、裂果の心配があるため、一度に多量なかん水は避ける。

○かん水設備のない場合

樹冠下は、わらマルチや草刈により土壌乾燥を防止する。

乾燥が続く場合、樹冠下を中心に、週に1度、1樹当たり200～300リットルを目安に灌水する。

野 菜

○施設トマト、キュウリ

施設内が高温・乾燥にならないよう、日中25～28℃前後を目標に換気し、適宜、かん水する。

○スイートコーン

雄穂抽出期（節間伸長期）から収穫までの時期に乾燥すると果粒の肥大が悪くなり、品質低下につながるので、適宜かん水する。

特に無除けつ栽培では、葉からの水分蒸散が多くなるので、かん水も多く必要となる。

○露地野菜

定植後に乾燥が続き、朝方でも葉がしおれるような場合は、かん水する。

花 き

○鉢花、洋ラン

日中、ハウス内が高温にならないよう、遮光や換気を徹底する。また、乾きやすいため、こまめな水やりに努める。

○露地キク

かん水を行い、土壌の適湿に努める。

畜 産

○共通事項

- ・新鮮で良質な飼料、主要なビタミン・ミネラルを与え、健康な状態の維持に努める。
- ・高温時は飼料や水が腐りやすいので、飼料の保管に注意し、食べ残しを放置しないよう努める。
- ・常に新鮮な水を十分飲めるようにする。
- ・行動をよく観察し、呼吸が荒い・元気がないなどの異常畜の早期発見・早期治療に努める。

○舎飼い家畜（牛・豚・鶏等）への対策

- ・畜舎内温度に注意し、窓や戸の開放、換気扇・扇風機・ポリダクト等の送風器具を使用し、通風や換気を行う。
- ・畜舎内外や畜体に散霧、放水を行い、畜舎内の温度や家畜の体感温度を下げる。
- ・密飼いを避け、パドック等には日除けを設置する。

○放牧家畜（主に牛）への対策

- ・放牧する時は、朝・夕などの涼しい時間帯に行うようにし、林など日陰ができる場所に放牧するよう努める。